

## 廃プラスチックのサーマルリサイクルに伴う実証確認を進めています

廃プラスチックのサーマルリサイクルについては、平成 20 年度の本格実施に向け、現在 23 区と連携した取り組みを進めています。平成 18 年度は 4 区（品川区、大田区、足立区、杉並区）が実施しているモデル収集に対応してモデル収集可燃ごみ（以下「モデル可燃ごみ」という）を清掃工場で焼却し、環境への影響や施設の安全性について検証する「実証確認」を下表のとおり実施しています。

実施清掃工場	モデル収集開始時期[実施区・規模]	第三者機関 <sup>2</sup> による測定期間	測定結果の取りまとめ
品川清掃工場	7月1日[品川区：約6,900世帯]	8月21日～8月28日	平成18年10月下旬
足立清掃工場	9月4日[足立区：約9,300世帯]	9月25日～10月2日、24日	平成18年12月下旬(予定)
多摩川清掃工場	9月4日[大田区：約8,200世帯]	10月16日～10月23日	平成19年1月初旬(予定)
杉並清掃工場	10月2日[杉並区：約9,700世帯]	11月13日～11月20日 (1,3号炉)	平成19年2月中旬(予定) 1

1 杉並清掃工場の2号炉は表中の測定期間に停止しているため、12月中旬に測定し、3月下旬に結果の取りまとめを行う予定です。

2 第三者機関とは、環境計量士の資格を有する計量証明事業の登録及び認定特定計量証明事業者の認定を有している分析機関のことをいいます。

このたび、品川清掃工場の実証確認実施報告がまとまりましたので次のとおりご紹介いたします。

### 品川清掃工場実証確認結果

#### 実施清掃工場及び焼却対象ごみ

- ・品川清掃工場（焼却能力：600t/日）
- ・品川区のモデル可燃ごみ（約50t/週）  
（西五反田、荏原地域約6,900世帯から収集）

#### 実証確認測定期間

モデル可燃ごみの性状が安定した8月21日から8月28日までの間に実施

#### 測定項目及び確認結果

全体の概況としましては、基準値がある項目はそれぞれの法規制値や協定値を下回り、基準値がない項目は、清掃工場の通常の操業での出現範囲に収まっているという結果になりました。

測定項目別の概要は下表のとおりです。

測定項目	実証確認結果概要
排ガス（煙突） 排水 焼却灰、飛灰、 汚水処理汚泥等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・測定結果はすべて法規制値及び協定値を下まわっていました。</li> <li>・測定値は実施前と同程度であり、モデル可燃ごみ焼却の影響は見られませんでした。</li> <li>・排ガス（煙突）におけるダイオキシン類の測定値、排水における各測定値は、平成17年度の他工場の値( )から判断して通常の出現範囲でした。</li> </ul>
ごみ性状調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バンカごみ(実際に焼却するごみ)に占める廃プラスチック(ゴム・皮革含む)の割合は7.41%であり、平成17年度の他工場の期別調査値( )の出現範囲でした。</li> <li>・モデル可燃ごみに占める廃プラスチック(ゴム・皮革含む)の割合は15.47%でした。</li> </ul>
周辺大気調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・測定値は実施前と同程度であり、モデル可燃ごみ焼却の影響は見られませんでした。</li> <li>・ダイオキシン類については、通常の大気中の出現範囲であり、周辺大気環境に与える影響は極めて小さいといえます。</li> </ul>
運転データ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運転管理用の自動測定装置計測結果はすべて法規制値及び操業協定値を下まわっていました。</li> <li>・各運転データは、実施前と同程度であり、モデル可燃ごみを焼却した影響は見られませんでした。</li> </ul>

品川清掃工場は、平成18年3月稼働開始であり、平成17年度の調査実績がないため、他工場の調査実績と比較しました。

**実証確認実施報告は、一組ホームページ(<http://tokyo23.seisou.or.jp/>)で公表しています。また、その他の清掃工場での実施報告もまとまり次第、一組ホームページで公表していきます。**